

その他研修

研修の目的

本研修では、学校として業務を改善していく為に、まずは、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）が、どの程度活用できるのかを把握します。次に、RPAができること、向いている業務について、他校事例も交えて知識を習得し、RPAの導入意義を確認します。さらに、自分の担当業務の中でRPA化できる業務を洗い出すことで、研修後、実際に業務の見直しに着手できることを目指します。

研修の構成（例）

所要時間 60～120分

1 なぜ今RPAなのか？

- 学校でRPAの検討・導入が進む背景
- RPA導入による効果
- 定型業務から企画業務へのシフト

2 RPA化に向いている業務

- RPA化に向いている業務
- RPAの得意領域

3 学校業務とRPA

- RPAを導入したきっかけ
- ケーススタディ～他大学での運用事例～

4 担当業務を見直そう

- 自動化対象業務の選定について

5 RPA導入に当たってのポイント

- RPA導入までの流れ
- 「調査・試行」段階のポイント



研修の目的

本研修は、大学の10年後を担う若手職員が率先してツールの活用を始めとしたDXを推進するとともに、部局横断的な業務改善を実装させる経験を得ることを目的としています。

研修イメージとしては、「初級編」「中級編」「上級編」の3ステップで段階的に学習していきます。

貴学職員に求められるDXをけん引する人材について、座学と実践を交えながら体系的に習得していきます。

研修の構成（例）



初級編

目的：職員力の基礎講座として、「課題設定～業務改善」に必要となるスキル、スタンスの基本を学ぶことを目的とする。

対象者：受講希望者すべて

実施期間：1カ月程度

研修方法：e-ラーニング（動画講座）



中級編

目的：身近な課題の中から業務改善を推進するとともに、部局横断的な業務改善を着地させる経験を得ることを目的とする。

対象者：自薦または課長からの推薦者
（1チーム3名程度×3チーム程度）

実施期間：3カ月程度

研修方法：対面＋Webミーティング

上級編

目的：大学全体を視野に課題発見、対応策の企画立案、成果発表等を実践的に経験することにより、大学マネジメント力の向上を図ることを目的とする。

対象者：所属部長からの推薦による
意欲のある職員（35～45歳程度）

実施期間：3カ月程度
研修方法：対面またはWebミーティング

備考：経営層へのプレゼンテーション実施



貴学の状況に合わせて
オーダーメイドでご提案します。



研修の概要

目的：生成AIの概要を把握し、教育機関における活用方法を理解する

目標：

1. 生成AIの概要を説明できる
2. 生成AIを活用する利点を説明できる
3. 自身の業務における生成AIの活用場면을列举できる

研修の構成（例）

1 研修の概要

- ・ 目的・目標

2 生成AIとは何か

- ・ 生成AIとChatGPT

3 生成AIの利点と限界

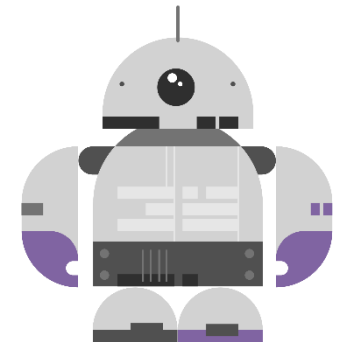
- ・ 使う必要はあるのか
- ・ 活用場面例
- ・ 活用における留意点

4 活用の手順を理解しよう

- ・ プロンプトの出し方
- ・ よいプロンプトとそうでないプロンプト
- ・ 活用場면을検討しよう

5 おわりに

- ・ 研修の振り返り
- ・ もっと学びたい人のために



研修の目的

LGBTQsについて学ぶことは、性的多様性の理解を深め、差別や偏見を減らすために不可欠です。この研修では、まずLGBTQsの定義や人口比率、いじめの実態、カミングアウト状況を学ぶことで、性的マイノリティに対する理解を深めます。また、医療業界での取り組みや国際的動向も考慮しつつ、学生支援の方法や事例も確認します。これにより、全ての教職員と学生が安心して学べる環境づくりを目指します。

研修の構成（例）

所要時間

60分

1 LGBTQsを取り巻く環境

- ・ 「性的指向と性自認」に関する各国の主な動き
- ・ LGBTQs/性的マイノリティとは
- ・ 同性愛者の人口比率
- ・ 全国調査からわかるいじめの実態
- ・ 周囲の人間へのカミングアウト状況
- ・ 医療業界におけるLGBTQs

2 LGBTQsの学生支援

- ・ 支援のあり方
- ・ 学生、児童生徒の支援事例
- ・ 厚労省ガイドライン
- ・ LGBTQsの方とのコミュニケーション



高等教育は変化の時期を迎えています。その中でも「学修成果の可視化に基づく内部質保証の実質化」「第4期認証評価サイクル」「設置基準や設置審の厳格化」、そして、「改正私立学校法」は、IRをますます重責に導く可能性があり、IRを導入すれば良かっただけ時代から、IRの活用方法の成否が、大学の持続可能性に影響を与える時代となってきました。IRの”基本”にも変化が求められています。本研修は、現代的なIRの役割と業務、課題を、高等教育のトレンドの中で正しく位置付け、講義と併せ、簡易的なワークショップも取り入れながら、全ての大学職員にとって現代的な大学マネジメントのあり方に関する考え方を深められる研修です。

研修の目的

- 「教育DX」や「データ駆動型教育」等はIRと密接な関係にあるが、ChatGPTを挙げるまでもなくAI等の新技術も「知らない」「使えない」では済まされない時代となっている。これらIRに関連する技術的なキーワードの基礎知識と課題を考える。
- 「学修成果の可視化に基づく内部質保証の実質化」「第4期認証評価サイクル」「設置基準や設置審の厳格化」「改正私立学校法」等の高等教育環境の重要な潮流を理解し、IRとの関係を整理する。
- IRを正しく活用できないことが生むリスクを理解する。
- IRは大学マネジメントの1つのツールに過ぎず、最も重要なことは各大学のマネジメントスタイルの確立と、その中でどのようなデータをどのように用いるのか、その検討や議論であることを理解する。
- 実際のデータ分析事例とその活用事例を知り、自学にとって何のために、どのようなデータのどのような分析が必要なのかを深く考える。

研修の構成（例）

所要時間

90分～120分

1 IRの新たな基本の検討（30分）

- DX、AI等の新技術が意味するもの ～欧州のGDPRはどのような哲学に基づき、何を問題としているのか～
- 高等教育のトレンドとIR ～学修成果の可視化に基づく内部質保証の実質化,第4期認証評価サイクル,設置基準や設置審の厳格化,改正私立学校法～

2 IRの新たな基本の理解

- 米国IRの沿革と日本との最も大きな差異
- IRの定義・目的・役割・機能・IRレポートの種類

3 IRの目的と分析事例

- IRデータの分析とストーリー ～分析しないデータの価値は低い～/いかに人を動かすストーリーを紡ぐのか

4 ワークショップ

- 制約条件下でIRの理念を確立するために